

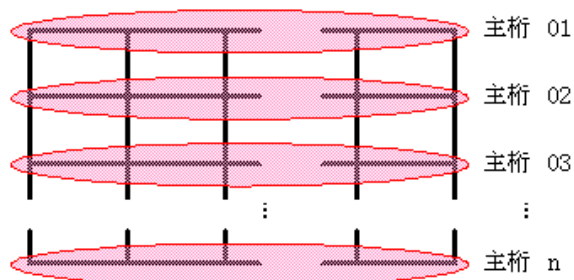
5. 調査結果の記録

調査結果は、1 径間ごとに下図に従い記録する。径間番号は起点側から、1、2…とし、各径間ごとに下記の要領で部材番号を付けて、調査結果を作成する。下記の要領に従って記録することが困難な特殊形式の橋梁の場合には、橋梁の構造に応じて適切に部材区分と部材番号等を設定し記録する。

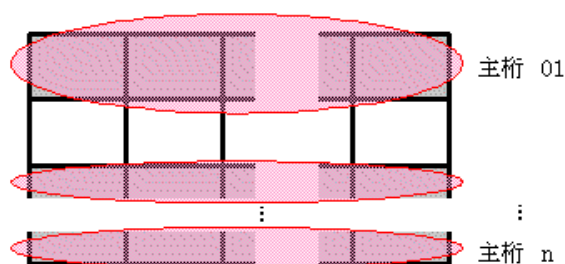
①主桁・縦桁

原則として、一主桁ごとに区分する。

1) 鋼鈹桁、コンクリート T 桁等



2) 箱桁等

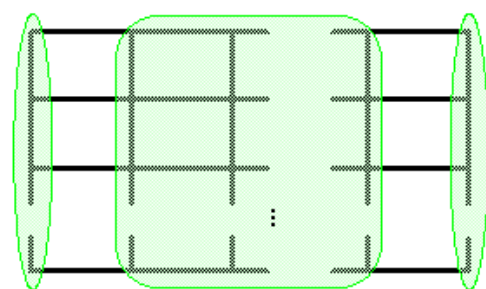


床版橋等で1主桁ごとに区分ができないものについては、全体で主桁01として評価する。

②横桁・対傾構

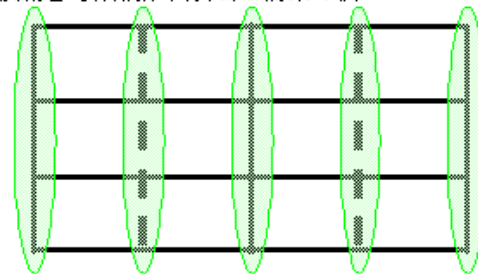
端部と中間部に区分する。

なお、横桁と対傾構の両方を有する橋梁については、端部を 01 と 03、中間部を 02 とし評価する(下右図参照)。



横桁 01 横桁 02 横桁 03
対傾構 01 対傾構 02 対傾構 03

＜横桁と対傾構が両方ある橋梁の例＞



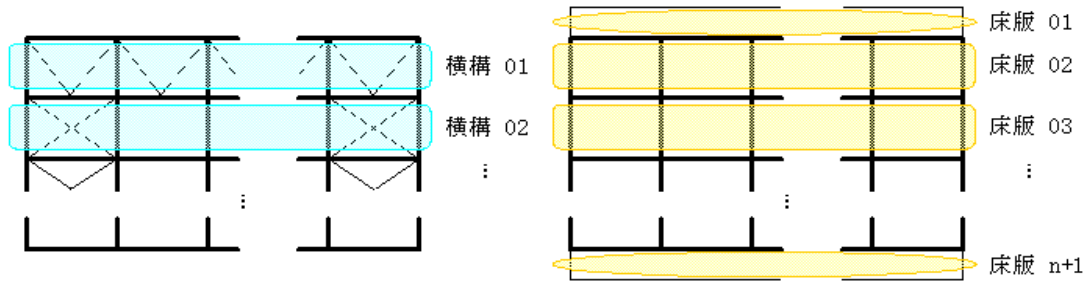
横桁 01 横桁 02 横桁 03
対傾構 02 対傾構 02

箱桁等の場合は、同一ライン上にあるダイヤフラムと横桁は別に評価しなくて良い。

③横構・床版

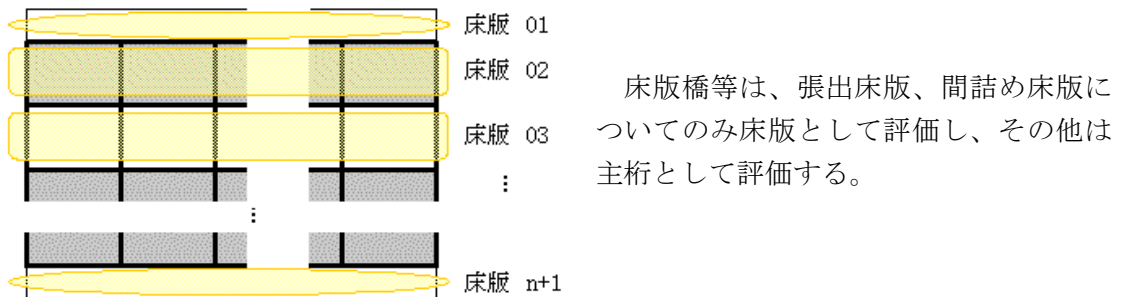
主桁で区切られたラインごとに区分する。

1) 鋼鈑桁、コンクリートT桁等



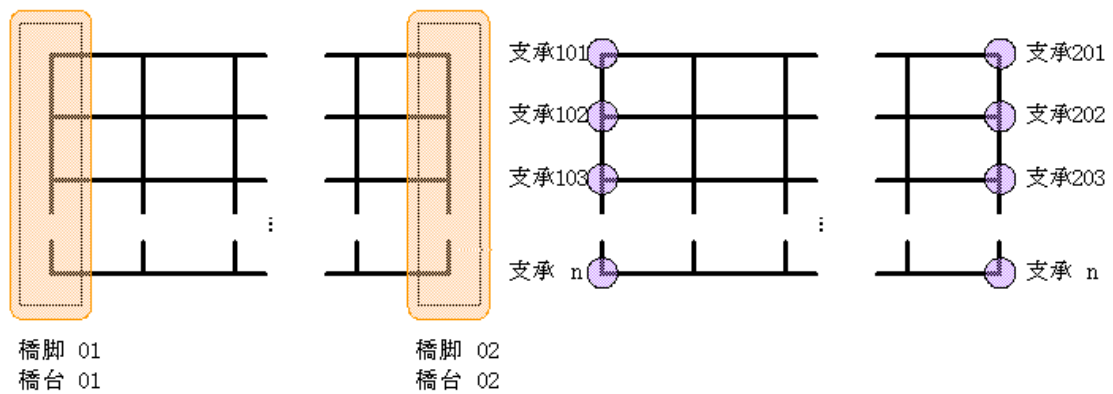
PCT桁については、原則として間詰め部のみ、RCT桁については、ハンチ以外を床版とし、上フランジ、ハンチは主桁として評価する。

2) 箱桁等

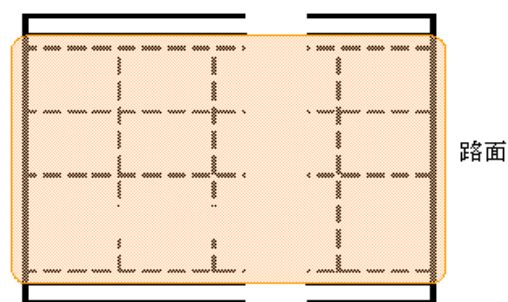


④下部工(橋脚・橋台)・支承

1基ごととする。



⑤路面



径間一面で評価する。